

第2章 観光を取り巻く情勢と太宰府市の現状

1 観光に係る社会情勢

(1)人口減少・少子高齢化の進行

我が国の総人口は、平成20(2008)年をピークに減少に転じて以降、人口減少に歯止めがかからず、「日本の将来推計人口」では令和35(2053)年に1億人を割り込み、令和47(2065)年には8,808万人まで減少すると予測されています。また、令和47(2065)年には高齢化率が約38%になり、生産年齢人口も継続的に減少すると推計されています。

今後の人口減少や高齢化による地域経済活動の更なる縮小が予想されるため、交流人口や関係人口を拡大し、観光消費による地域経済の活性化が必要不可欠となっています。

(2)コロナ禍の影響

令和2(2020)年からの新型コロナウイルス感染症の影響は、全世界の社会活動を停滞させ、観光行動も制約を受ける中、生活様式の変化(ニューノーマル)による新たな観光のスタイルとして、マイクロツーリズム*やワーケーション*等が普及しました。

また、この数年であらゆる業界で進められたDX(デジタルトランスフォーメーション)*は、観光においても情報管理・発信やマーケティングだけでなく、コンテンツの拡充や観光アプリケーションの導入など、来訪客の行動にも変化をもたらしています。

(3)「SDGs」や「持続可能な観光」に対する意識の高まり

平成27(2015)年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」(SDGs)は、貧困や飢餓の撲滅、教育、クリーンエネルギー普及、経済成長、環境保全など、令和12(2030)年の達成を目指す17の目標を掲げており、その目標達成に向け、世界的な取り組みが推進されています。

観光はSDGsの複数の目標達成に貢献する役割を担うものと位置付けられ、国連世界観光機関(UNWTO)*が「観光と持続可能な開発目標」を発表したことにより、「持続可能な観光」(サステナブルツーリズム)への関心が世界中で高まっています。日本においても国際基準を踏まえた「日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)」が開発されており、これらの動向を踏まえ、各地域では、オーバーツーリズム*対策や地域の自然・文化等の保全・活用等をはじめとした持続可能な観光地域づくりが求められています。

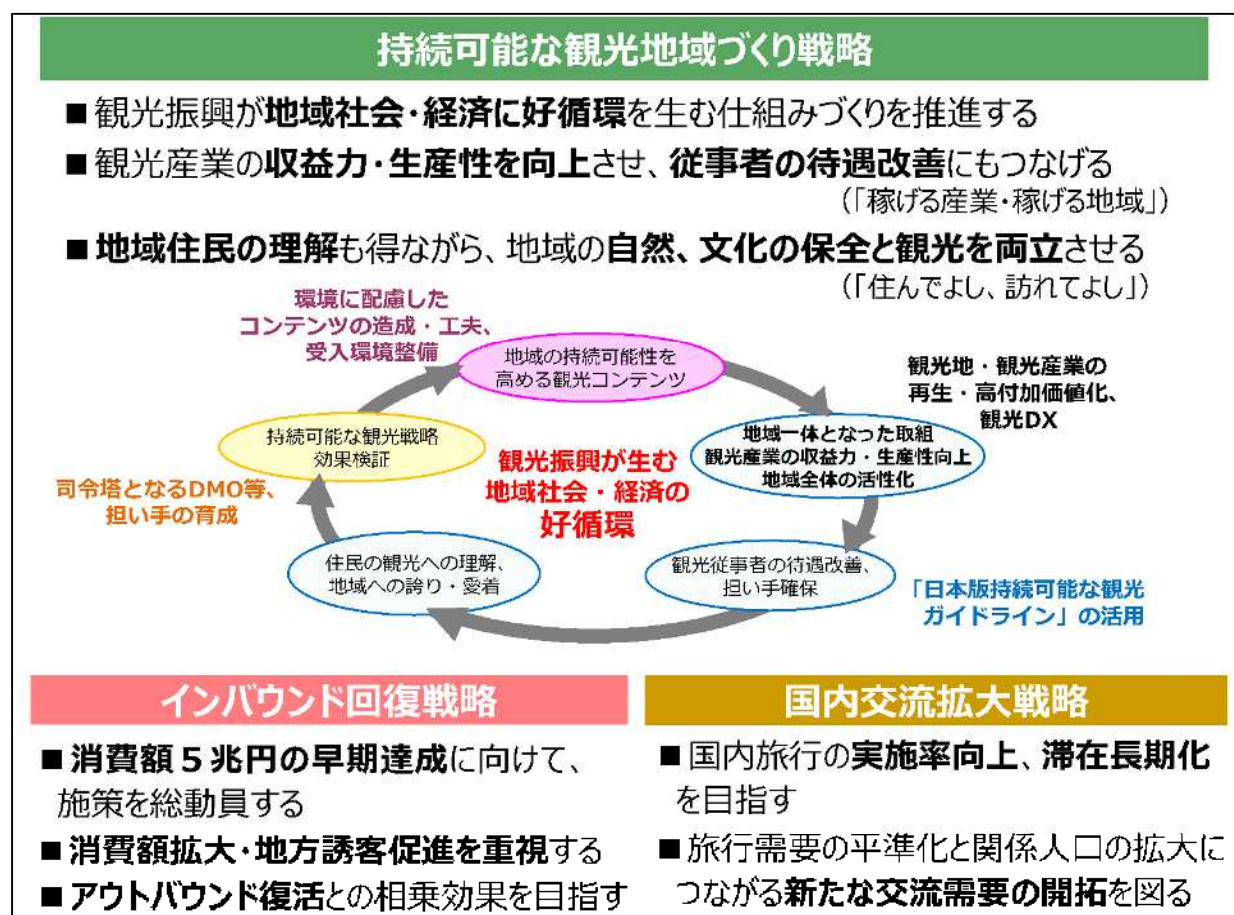


2 国・県の観光振興の動向

(1) 国の動向

国は令和 5(2023)年3月に「観光立国推進基本計画」(第4次)を閣議決定し、令和 7(2025)年を目標年度として、「持続可能な観光」「消費額拡大」「地方誘客促進」をキーワードに、「持続可能な観光地域づくり」「インバウンド*回復」「国内交流拡大」に戦略的に取り組み、全国各地に観光の恩恵を行きわたらせることを目指しています。

《観光立国推進基本計画(第4次)の基本方針》



また、同年10月に観光立国推進閣僚会議にて、観光需要の急激な回復に伴うオーバーツーリズム*への懸念を受け、オーバーツーリズム*の未然防止・抑制に向けた対策を行うことを決定しました。閣僚会議にて了承された「オーバーツーリズム*の未然防止・抑制に向けた対策パッケージ」は、「1. 観光客の集中による過度の混雑やマナー違反への対応」、「2. 地方部への誘客の推進」、「3. 地域住民と協働した観光振興」の3つの柱で構成されており、地域における課題解決に対し、国として総合的な支援を行っていく方針です。

《オーバーツーリズム*の未然防止・抑制に向けた対策パッケージ(令和5年10月観光立国推進閣僚会議決定)・概要》

オーバーツーリズムの未然防止・抑制に向けた対策パッケージ	
○国内外の観光需要は急速に回復し多くの観光地が賑わいを取り戻しているが、都市部を中心とした一部地域への偏在傾向も見られ、観光客が集中する一部の地域や時間帯等によっては、過度の混雑やマナー違反による地域住民の生活への影響や、旅行者の満足度の低下への懸念も生じている状況であり、適切な対応が必要。 ○地方部への誘客をより一層強力に推進し、全国津々浦々あまねく観光客を呼び込んで行く。 ○観光客の受け入れと地域住民の生活の質の確保を両立しつつ、持続可能な観光地域づくりを実現するためには、地域自身があるべき姿を描いて、地域の実情に応じた具体策を講じることが有効であり、国としてこうした取組に対し総合的な支援を行う。	
1. 観光客の集中による過度の混雑やマナー違反への対応	2. 地方部への誘客の推進
1-1. 受入環境の整備・増強 1-2. 需要の適切な管理 1-3. 需要の分散・平準化 1-4. マナー違反行為の防止・抑制	<地方部の観光地の魅力向上> ・高付加価値なインバウンド観光地づくり 等 <受入環境整備> ・空港業務人材の確保や施設整備等への支援 等
3. 地域住民と共同した観光振興	自治体・DMOや事業者が地域住民に積極的に働きかける取組を促進
・地域の実情に応じた上記の対策を促進すべく、住民を含めた地域の関係者による協議に基づく計画策定・取組実施への包括的な支援を全国約20地域で実施し先駆モデルを創出。他地域にも横展開。 ・各地域における課題解決に係る相談窓口を観光庁に直ちに設置。各省庁が連携し支援する体制を整備。	

(2)福岡県の動向

福岡県では、令和4(2022)年度～令和8(2026)年度を計画期間とする「福岡県総合計画」を策定しており、「ウィズコロナ・ポストコロナを見据えた観光産業の高付加価値化」「広域ルートの設定・新たな観光エリアの創出による旅行消費の拡大」「デジタルマーケティングの強化」「マーケティングに基づく戦略的な国内外からの誘客・県内周遊の促進」「観光人材の育成、観光組織体制の強化」といった施策と数値目標(令和8年度)が設定されています。

また、令和6(2024)年度～令和8(2026)年度を計画期間とする第三次福岡県観光振興指針では、「“つながる”福岡観光」を目指す姿とし、「回復するインバウンド*需要の本件への着実な取り込み」、「リピーターの確保と県内の周遊促進」、「観光DX*の推進」、「持続可能な観光(観光SDGs)の推進」の4つの基本戦略と、「受入環境の充実」、「観光資源の魅力向上」、「戦略的なプロモーション」、「観光振興の体制強化」の4つの施策の柱を掲げています。

3 太宰府市の観光の現状

(1)太宰府市の観光の歴史

古代(飛鳥～平安時代)

天智2(663)年、白村江の戦いでの大敗により、唐と新羅の侵攻に備え、筑紫の地に水城・大野城・基肆城といった城砦が築られました。

大陸との緊張状態も薄れると、大宝元(701)年の大宝律令によって大野城が築かれた四王寺山麓に大宰府が置かれます。大宰府は九州(西海道九国三島)の管轄や辺境防備を担うとともに遣唐使・遣新羅使や外国使節、商人が往来する外交・交易の拠点として栄え、続日本紀にも「人物殷繁、天下之一都会也(人と物があふれていて、我が国有数の都会である)」と記されるほどでした。こうした大宰府の地には、今に残る観世音寺の梵鐘や仏教美術といった大陸由来の文物がもたらされるとともに、都からも多くの官人が赴任し、都の先進文化も集積されていきました。

特に大宰帥として赴任した大伴旅人は、当時唐から伝来したばかりの高貴な梅の花を愛でつつ和歌を披露しあう「梅花の宴」を自身の邸宅で開き、そこで詠まれた「梅花の歌」は日本最古の歌集「万葉集」に収められ、この序文が元号「令和」の由来となっています。「万葉集」にはこうした旅人を含む「筑紫万葉歌壇」の歌が多く納められており、多くの官人が大宰府や大野城、次田温泉(現在の二日市温泉)など筑紫の風景に心を寄せて歌を詠んでいます。一方で大宰府は、朝廷の高級官人の左遷先にもなりました。延喜3(903)年にこの地で亡くなった菅原道真の埋葬された場所には祠廟が建立、菩提を弔うため安楽寺が創建され、後に太宰府天満宮となりました。

中世(鎌倉～安土・桃山時代)

鎌倉時代には、関東御家人の武藤氏が下向し、大宰府の次官である少貳を名乗り、官人らを従えて朝廷と幕府双方から政務を執りました。蒙古襲来時には日本軍の総大将も務めています。鎌倉時代後期に鎮西探題が博多に置かれ、政治的な中心は次第に博多へ移りますが、それでもなお太宰府は重要な拠点でした。征西府方・九州探題方・足利直冬方が三つ巴で争った南北朝時代には近郊で主要な合戦が行われました。室町・戦国時代には守護が少貳氏から周防の大内氏、豊後の大友氏と変わり、戦国末期、大友方の高橋紹運が九州制覇を目指す島津と戦いました。太宰府は灰燼に帰しますが、その後筑前に入った小早川氏、黒田氏によって、太宰府天満宮、観世音寺の再興が図られました。

この時代、観世音寺や安楽寺(太宰府天満宮)に加えて崇福寺や光明寺といった新興禅宗寺院が増加するなどの宗教的高揚の中で、これらの太宰府の社寺への参詣が広がりました。

特に天満宮安楽寺に参詣した貴族や文人は、社頭で和歌や連歌を詠むことが多く、文明12(1480)年の飯尾宗祇や永正14(1517)年の宗碩といった連歌師による参詣はその代表といえます。

近世(江戸時代)

近世になると、太宰府を含む筑前国は福岡藩領・黒田家の治世となりました。天神様・菅原道真公に崇敬心の厚かった福岡藩祖・黒田如水(孝高)は福岡城築造中に太宰府天満宮の境内、井戸(如水の井戸と如水社)のある場所に小さな庵を結び隠居しました。その子で福岡藩祖、初代藩主・黒田長政は、筑前入国の後、戦乱で荒廃した太宰府天満宮の建物の再建や灯籠の寄進、祭事の復興に尽力しました。

その後、黒田家は代々、太宰府天満宮を崇敬し、正月には太宰府天満宮に参詣し、連歌会へ出席するのを恒例としました。

また、太宰府天満宮への参詣と太宰府周辺の名所旧跡を巡る「さいふまいり」が流行し、庶民の間にも広く浸透していきました。参詣者が宿泊する太宰府天満宮参道周辺の「宰府宿」は、太宰府天満宮の門前町、福岡藩が設けた「筑前二十一宿(21の宿場)」の一つとして栄えます。

宰府宿へは東西南北の構口(かまえくち)から入ることができ、長崎街道や日田・久留米方面からの入口である溝尻口、福岡・博多方面からの高橋口、二日市と佐賀・長崎方面からの五条口、宇美方面からの三条口がありました。

「さいふまいり」は、五穀豊穰、厄除け・厄払い、学業成就など、様々な祈願を兼ねた観光旅行でもあり遠方からの参拝客も多く、門前町には旅籠が並び、籠や馬も行き交っていました。当時から参道では太宰府天満宮の案内絵図や道中記(旅行案内・観光ガイドブック類)や梅ヶ枝餅など土産物が販売されており、多くの旅人の紀行文で紹介されています。また、明治時代以降には、太宰府の名所・旧跡の絵葉書もつくられていたことが見受けられます。

幕末には、文久3(1863)年の八月十八日の政変により京都から追放され、長州藩に潜伏していた三条実美ら五卿が、太宰府天満宮の延寿王院に移転・滞在しました(五卿の西遷)。また、土方久元や水野正名、中岡慎太郎ら五卿の随従者や福岡藩・久留米藩・佐賀藩・熊本藩・薩摩藩、5藩の藩士たちも五卿の警備・応接のために太宰府に出張・滞在、九州各地や下関、京都などを往来しました。

宰府宿には、西郷隆盛や坂本龍馬、中岡慎太郎、高杉晋作といった幕末の志士が訪れ、倒幕に向けた国事周旋や情報交換等が行われたことから、太宰府は明治維新策源地の1つとされています。薩摩藩ゆかりの松屋(維新の庵松屋)をはじめ大野屋(まめや)、泉屋(梅園菓子処)、日田屋(石ころ館)、大和屋(喫茶店風見鶏)などといった旅籠跡(大町旅館街)は現在も天満宮参道の店舗や町並み景観として残っています。

近現代(明治時代～)

「さいふまいり」の道筋は、明治時代以降大きく様変わりしていきます。明治35(1902)年に菅公御神忌1000年祭を契機として太宰府～二日市間に「太宰府馬車鉄道」が開通しました。これはレールの上を馬が14、5人乗りの車両を引いて走るというものでした。

大町に太宰府駅ができると日帰り客の増加に比例して宿泊客が減少し、参道には旅館を改業した土産物屋、飲食店、商店が増加しました。

その後、明治40(1907)年に「太宰府馬車鉄道」は「太宰府軌道」に改名、大正2(1913)年には馬車鉄道は蒸気機関車に変わり、福岡県内でも初めてといわれる路線バスも太宰府～二日市間に開業しました。

大正13(1924)年には福岡～久留米間に西日本鉄道の前身である「九州鉄道」が開通し、昭和2(1927)年、蒸気機関車は電車へ変わり、昭和9(1934)年に「太宰府軌道」は「九州鉄道」に合併されました。その後昭和17(1942)年に他の鉄道4社とともに「九州電気軌道」に吸収合併され、社名変更により「西日本鉄道」となりました。

昭和30年代になると県道31号線を皮切りに九州自動車道の開通や国道3号バイパスなど新たな道路が整備され、太宰府天満宮への車による参詣者が増加し、天満宮周辺に観光客用の駐車場が増えていきました。

近代においては、太宰府の土地に残る史跡等文化財の保存も行われるようになります。近代化により土地開発が進むなか、土地に根付く文化財の保存を目的として大正8(1919)年に「史蹟名勝天然紀念物保存法」が制定され、大正10(1921)年3月に48件の遺跡が日本で初めて史跡指定を受け、大宰府

第2章 観光を取り巻く情勢と太宰府市の現状

跡および水城跡もその中に含まれました。その後も大野城跡など市内の史跡地の指定が続き、今では特別史跡を3件有する史跡のまちとなっています。

一方、明治時代から日本美術の研究者として著名な岡倉天心や地元有志により進められていた太宰府への国立博物館誘致活動は、昭和40年代に再びその機運が高まりました。昭和46(1971)年に太宰府天満宮が博物館の建設用地として社有地14万㎡を寄付し、県用地を加えた合計17万㎡を確保、昭和63(1988)年にはつくし青年会議所を中心に「九州アジア国立博物館を誘致する会(後に九州国立博物館を支援する会に改称、現九州国立博物館を愛する会)」を設立し、地元住民による募金活動を実施するなど、九州政財界や学会、太宰府天満宮をはじめとする地元住民の尽力により、平成17(2005)年に悲願の九州国立博物館が開館しました。

平成26(2014)年には、西日本鉄道により、天神大牟田線福岡～久留米間開業90周年に太宰府観光列車「旅人」が運行開始しました。また、JR博多駅～福岡空港国際線ターミナル～西鉄太宰府駅間を結ぶ西鉄ライナーバス「旅人」が運行開始し、福岡空港からノンストップで太宰府へアクセスできるようになりました。

平成27(2015)年4月、太宰府市の地域の歴史を語るストーリー「古代日本の『西の都』～東アジアとの交流拠点～」が、文化庁の「日本遺産」に認定されました。日本遺産とは、地域の文化財群をパッケージ化した魅力あるストーリーを、日本の文化・伝統を語る日本遺産として国が認定するもので、太宰府市を含む18件のストーリーが全国初の認定を受けました。

令和元(2019)年5月、新元号が太宰府とゆかりの深い「令和」となりました。4月の発表以降本市は「令和発祥の都太宰府市」として注目を浴びることとなり、多くの観光客が太宰府天満宮や九州国立博物館をはじめ、大宰府政庁跡や坂本八幡宮など令和ゆかりの地を訪れました。

古代から繋がってきた古都太宰府のまちの発展と、それとともに集積された歴史や文化、史跡・文化財は、現代においても国際観光都市・太宰府としての素地となり、様々な観光資源や魅力となり、多くの人を惹きつけています。

太宰府市観光関係年表

		太宰府市	日本
古代	7世紀後半	水城・大野城の築造、大宰府の成立 筑紫万葉の文化交流 大宰帥大伴旅人 山上憶良ら万葉歌人による筑紫万葉歌壇	663年 白村江の戦い 701年 大宝律令
	730年	大伴旅人が邸宅で梅花の宴を開く	753年 唐より鑑真が来日
	901年	菅原道真 太宰府に左遷	894年 遣唐使が廃止される
	919年	安楽寺(太宰府天満宮)創建	939年 藤原純友の乱
中世	1480年	飯尾宗祇、天満宮安楽寺に参詣	
	1517年	宗碩、天満宮安楽寺に参詣	

第2章 観光を取り巻く情勢と太宰府市の現状

		太宰府市	日本
近世	17世紀初	福岡藩・黒田家による太宰府天満宮の復興・寄進	
	17～18世紀	江戸時代における「さいふまいり」の流行 太宰府天満宮参道 宰府宿・大町旅館街の発達	
	19世紀	奥村玉蘭『筑前名所図会』や『西都旧跡十二景』などの刊行 齋藤秋圃「博多・太宰府図屏風」など絵図の作成	
	1865～67年	幕末の五卿の西遷 太宰府天満宮延寿王院に滞在 西郷隆盛、坂本龍馬、中岡慎太郎など幕末志士の往来	1867年 徳川慶喜が大政奉還
近現代	1873年	太宰府博覧会の開催	1877年 西南戦争
	1884年	吉嗣拝山『太宰府廿四詠』『太宰府十二勝』の刊行	
	1886年	松浦武四郎『聖跡二十五霊社順拝雙六』の出版	
	1902年	太宰府天満宮 菅公一千年祭を契機に太宰府馬車鉄道開通	1904年 日露戦争
	1907年	太宰府馬車鉄道、商号を太宰府軌道に変更	
	1913年	太宰府軌道、動力を馬引から蒸気機関車に変更	
	1921年	大宰府跡、水城跡が史跡指定	
	1927年	大宰府軌道、動力を蒸気機関車から電車に変更 太宰府～二日市間に路線バス開業	
	1934年	大宰府軌道、九州鉄道と合併	
	1942年	九州鉄道含む鉄道5社が合併、西日本鉄道へ	
	1955年	県道31号線(通称5号線)制定	1963年 観光基本法 制定 1964年 東京オリンピック
	1975年	九州自動車道太宰府インターチェンジ供用開始	1975年 山陽新幹線 博多駅へ延伸
	2003年	歴史と文化の環境税スタート	
	2005年	九州国立博物館 開館	2007年 観光立国推進基本法 施行
	2014年	西日本鉄道、太宰府観光列車「旅人」運転開始 西日本鉄道、ライナーバス「旅人」運行開始	2014年 訪日外国人客数 1,000万人突破
	2015年	日本遺産「西の都」の太宰府市単独認定	
	2019年	新元号「令和」プロモーションの実施	2019年 新元号「令和」発表
	2020年	日本遺産「西の都」広域型へ変更認定	2020年 日本版持続可能な観光 ガイドラインの策定
	2021年		新型コロナウイルスの流行
	2022年	太宰府観光協会の社団法人化	
	2023年	太宰府天満宮 令和の大改修(仮殿の建設)	2023年 観光立国推進基本計画 (第4次) 施行

第2章 観光を取り巻く情勢と太宰府市の現状

(2)「太宰府市観光推進基本計画」「太宰府市観光推進基本計画(追加変更)」の振り返り

平成 31(2019)年3月に策定した「太宰府市観光推進基本計画～大太宰府観光への挑戦～」では、日本有数の観光地である太宰府の魅力をさらに高め、地域の観光資源や人材ネットワークを活用し、観光消費を促進して、観光による持続可能な地域活性化や観光まちづくりを図るため、「住む人も訪れる人も共に喜びを分かち合えるまちづくり」を目指したもので、本市の歴史、文化、自然等といった地域資源や恵まれた立地の特性を最大限生かし、インバウンド*やアクティブシニア、女性の観光需要を捉えながら、宿泊需要の獲得、滞在時間の延長、回遊の促進による観光消費の拡大を図るため、「宿泊滞在促進戦略(太宰府で憩う)」「コト消費促進戦略(太宰府を味わう)」「回遊促進戦略(太宰府をめぐる)」「計画実行戦略(太宰府をつなぐ・結ぶ)」の4つの戦略を掲げました。

その後、平成 31(2019)年4月1日から始まった令和フィーバーでは、GWにかけて令和ゆかりの歌が詠まれた「梅花の宴」が催された場所と言われている大宰府政庁跡や坂本八幡宮が多数の観光客で賑わいました。この時期に参道でオープンした店も多く、特にスイーツやキャラクターショップなどが増えたことで、参道の食べ歩きを楽しむために来訪された方がSNSで情報発信することで、更にそれを見て来訪するという動きも増えました。また、人気アニメの映画化が話題になった秋に、主人公の姓と同じということで竈門神社にファンが多数訪れ例年を大きく上回る入込数となりました。しかし年明けには新型コロナウイルス感染症が流行し、3月以降、インバウンド*の受け入れが停止となりました。

12月に令和発祥の都ロゴマークを発表、令和 2(2020)年1月に令和発祥の都PRキャラクター「旅人のたびと」「れいわ姫」「おとものタビット」が誕生しました。

令和元(2019)年度

時期	出来事・事業
平成 31(2019)年 4月	・元号「令和」発表 ・大宰府政庁跡に天皇即位記帳所設置(4月27日～5月6日) ・令和モニュメント刻銘ふるさと納税クラウドファンディング募集開始 ・令和クリアファイル販売開始
令和元(2019)年 5月	・大宰府政庁跡にて時の旅人プロジェクト「令和の人文字」実施
6月	・大宰府政庁跡前にバス専用駐車場設置 ・西日本鉄道キッチン電車「THE RAILKITCHEN CHIKUGO」福岡(天神)―太宰府コース開業
10月	・古民家ホテル「ホテルカルティア太宰府」1号館「古香庵」オープン
11月	・西鉄都府楼前駅の副駅名に「令和の里」
12月	・令和発祥の都 太宰府市のロゴマーク制定
令和 2(2020)年 1月	・令和発祥の都PRキャラクター「旅人のたびと」「れいわ姫」「おとものタビット」が誕生
2月	・市役所前「令和の碑」除幕式及び大宰府政庁跡にて「梅花の宴」の再現
3月	・九州国立博物館「太宰府スイーツ散歩」イベントの一環で産官連携により、太宰府とゆかりの深い梅を使ったチョコレートを開発、販売

令和2(2020)年度は5月には緊急事態宣言による観光施設や宿泊施設、飲食店等の営業自粛により、GWの入込数が前年比マイナス95%を記録するなど、本市の観光業は深刻な打撃を受け、観光施策を感染症拡大防止や打撃を受けた観光事業者支援策へのシフトチェンジを行うこととなり、感染防止対策実施事業者にコロナ減宣言ステッカー配布と費用支援や感染防止対策アイデアコンテストの実施、「だざいふペイ」の実施(だざいふ得とく商品券の一部キャッシュレス化)、年末年始のコロナ感染拡大防止対策等を実施しました。

そうした中、コロナにより観光の面においても「新しい生活様式」への転換により、マイクロツーリズム*やワーケーション*、アウトドア等への関心が高まるとともに、オンラインツアーや観光と絡めたEC消費*、観光DX*の導入促進による持続可能な観光システム構築といった新たな観光の形が見えてきました。

こうした太宰府観光を取り巻く社会情勢や環境の変化、新しい環境の潮流やニーズを受けて、令和3(2021)年4月に本計画の追加変更を行いました。

この年、本市では特別史跡大宰府跡の客館跡史跡広場のオープン、日本遺産「西の都」の太宰府市単独認定から近隣4市1町とのシリアル化*、コロナ減コースの造成やバスツアーの企画、海外向け太宰府周遊オンラインツアーや、大宰府政庁跡で梅花の宴の再現を行いました。

また、3月にはホテルカルティア太宰府の「好古亭」「梅花」がオープンしました。

令和2(2020)年度

時期	出来事・事業
4月	・緊急事態宣言発令に伴い、観光事業者含む全事業者に休業要請(5月31日) ・特別史跡大宰府跡の客館跡史跡広場オープン
5月	・大宰府政庁跡前駐車場閉鎖、参道周辺店舗休業要請
6月	・単独認定だった日本遺産「西の都」のシリアル化*
10月	・感染防止対策実施事業者にコロナ減宣言ステッカー配布と費用支援 ・感染防止対策アイデアコンテスト募集開始 ・「だざいふペイ」実施(だざいふ得とく商品券の一部キャッシュレス化)
11月	・太宰府市公式LINE及びLINEスタンプ販売開始
12月	・年末年始コロナ対策 初詣参拝客等に西鉄太宰府駅前等マスク3万枚配布 西鉄太宰府駅等にサーモグラフィーを8台設置 西鉄電車の正月時期特別ダイヤに運行(期間拡大による分散化)
令和3(2021)年 2月	・コロナ減観光ルートの整備(バスツアーの造成) ・太宰府万葉食(古代食弁当)の造成 ・九州観光コンソーシアム事業の一環で海外オンラインツアー実施 ・大宰府政庁跡にて「梅花の宴」の再現と中西進先生講演会開催
3月	・大宰府史跡指定100年記念シンポジウム ・ホテルカルティア太宰府「好古亭」「梅花」オープン(3月26日)

第2章 観光を取り巻く情勢と太宰府市の現状

令和3(2021)年度は、本市では令和発祥の都太宰府「梅」プロジェクトが8月に始動、これまで16社22品の梅商品を販売しています。

また、本市観光HPのリニューアルや人気ユーチューバーとのコラボによる観光ユーチューブ動画配信や、森永製菓(株)とのコラボによる森永甘酒太宰府デザイン缶の販売、太宰府天満宮内にお菓子の神様が祀られている神社があることにちなみ、太宰府スイーツの人気店を投稿数で決定するという「スイーツ総選挙」の実施支援、その実施時期に来訪者へ参道周辺店舗で使用可能なクーポン券を配布する「太宰府再発見クーポン」事業を行い、いずれも好評を博しました。

令和3(2021)年度

時期	出来事・事業
4月	・太宰府市観光推進基本計画追加変更(別冊)策定
8月	・令和発祥の都だざいふ「梅」プロジェクト始動 ・太宰府観光ホームページリニューアル「ふらっと太宰府」開設
9月	・西鉄太宰府駅にストリートピアノ設置(寄贈による設置)
10月	・タビットマンホール設置
11月	・ホテルカルティアで梅ソースと梅アフタヌーンティー限定販売
12月	・森永甘酒太宰府デザイン九州地区限定販売 ・混雑可視化システム導入(12月～) ・西鉄太宰府駅にコロナ感染拡大防止啓発デジタルサイネージ設置
令和4(2022)年 1月	・人気ユーチューバーを活用した観光Youtube動画制作 ・福岡県共同事業太宰府誘客・周遊イベント「スイーツ総選挙」 ・太宰府再発見クーポン事業
2月	・太宰府館で「梅花の宴」再現

市制施行40周年を迎えた令和4(2022)年度は、5月の感染対策の緩和、10月の個人のインバウンド*解禁の流れの中で、全国的にポストコロナに向けた国内外観光振興に力を入れていくようになりました。

本市では5月に法人化した(一社)太宰府観光協会と連携し、日本遺産「西の都」をテーマとした周遊ウォーキングイベント「日本遺産「西の都」ふれあいウォーク」を開催、日本遺産を巡るモニターツアーや日本遺産「西の都」について学ぶ古代史講座の開催、日本遺産「西の都」周遊をサポートする観光アプリの開発、参加者へ「西の都」オリジナルスイーツ「旅人の梅」配布を行いました。
このほか、大伴旅人と万葉、梅花の宴を題材とした映画制作、QRコード決済サービスを活用した「だんぜん太宰府」キャンペーン、40周年記念式典における映画の上映と梅花の宴の再現等を実施しました。

令和4(2022)年度

時期	出来事・事業
6月	・太宰府観光協会の一般社団法人化
8月	・太宰府マンホールカード配布開始
10月	・日本遺産「西の都」ふれあいウォーク開催(現地ガイド、モニターツアーも実施)(10月29日)

	・だんぜん太宰府クーポン販売(10月29日、30日) ・太宰府観光協会、旅人の梅試験開発、ウォーク参加者に配布(10月29日)
12月	・福岡オープンイノベーション事業・連携事業者決定 ・コロナ禍のため中止していた年末ライトアップを3年ぶりに復活「ライトアップ in 令和の都」(12月31日) ・FM・AM ラジオ番組制作(～5年2月) ・「幸先詣は、だんぜん太宰府」PayPayポイント還元キャンペーン(12月1日～28日)
令和5(2023)年 2月	・市制施行40周年記念映画「令和の都に逢いにきて～だざいふ1300年物語～」制作 ・市制施行40周年記念式典での映画上映及び「梅花の宴」再現(2月11日) ・中西進先生をお迎えし、太宰府の文化人によるシンポジウム「令和文化記念会議」を開催 ・市制施行40周年を記念してだざいふ応援大使を委嘱 ・「2月もだんぜん太宰府！」PayPayポイント還元キャンペーン(2月13日～28日)

令和5(2023)年度は、令和6(2024)年度に実施される、福岡県・大分県の自治体と地元の観光関係者等がJRグループ6社と共同で開催する両県への大型観光誘客キャンペーン「福岡・大分デスティネーションキャンペーン」において5月に大分県、11月に福岡県で商談会を行い、本市の観光素材を素材集にしてPRを行いました。

また、人気携帯ゲーム『Pokémon GO』とのコラボで5月に太宰府市歴史的風致形成建造物41ヶ所のポケストップ化を、7月には同ゲームの新機能「ルート機能」実装に伴う太宰府市公式ルート化を行い、10月にはポケモンマンホール「ポケふた」を太宰府政庁跡、客館跡、西鉄太宰府駅に設置するなど、キャラクターとのコラボを次々と行いました。

令和6(2024)年2月には万葉集の編者である大伴家持ゆかりの地をリレーしながら行われる「令和の万葉大茶会」太宰府大会が開催され、地元と一体で盛り上げました。

令和5(2023)年度

時期	出来事・事業
5月	・福岡・大分デスティネーションキャンペーン全国宣伝販売促進会議参加 ・太宰府天満宮仮殿遷座 ・太宰府市×『Pokémon GO』太宰府市歴史的風致建造物41ヶ所のポケストップ化 ・産官連携による梅フレグランス商品発表(㈱コーシェリジャパン)
6月	・『令和の都だざいふ応援大使』委嘱 ・福岡県主催日本遺産「西の都」ウィーク参加(梅花の宴、竹の曲)
7月	・体験・滞在型観光の推進に向けた地域協働事業にかかる連携協定(㈱TRIPLUS) ・太宰府市×『Pokémon GO』新機能実装に伴う太宰府市公式ルート化 ・次期太宰府市観光推進基本計画策定協議会開催(審議開始) ・日本遺産「西の都」及び四王寺山三十三石仏をテーマとする周遊ルート造成
8月	・日本遺産「西の都」太宰府魅力発信ガイド講座(全5回～12月) ・福岡県事業「ユニバーサルツーリズム*専門家派遣」を活用した研究
9月	・日本遺産「西の都」パネル展(太宰府館・大宰府展示館連携企画) ・7年ぶりに「太宰府市民政庁まつり」を太宰府政庁跡にて開催
10月	・ポケモンマンホールの設置(太宰府政庁跡、客館跡、西鉄太宰府駅)

第2章 観光を取り巻く情勢と太宰府市の現状

	・ホテルカルティア太宰府人力車体験メニュー化 ・産官学連携によるインバウンド*向け商品造成にかかる地域協働事業開始
令和6(2024)年 2月	・令和の万葉大茶会太宰府大会開催(2月10日)

(3)観光客等アンケートによる分析結果

本計画の策定にあたり、本市の観光の現状を把握するため、以下5種類の調査を実施しました。

調査名	調査概要
日本人旅行者向け聞き取りアンケート	調査手法:調査員による聞き取り調査 調査対象者:太宰府市に訪中の日本人観光客 調査実施場所:西鉄太宰府駅～太宰府天満宮前の参道 調査期間:令和 5(2023)年8月5日～令和 5(2023)年8月6日 回収件数:305件
外国人旅行者向け聞き取りアンケート	調査手法:調査員による聞き取り調査(韓国語、中国語、英語) 調査対象者:太宰府市に訪中の外国人観光客 調査実施場所:西鉄太宰府駅～太宰府天満宮前の参道 調査期間:令和 5(2023)年8月5日～令和 5(2023)年8月6日 回収件数:300件
外国人旅行者向け認知度アンケート	調査手法:調査員による聞き取り調査(韓国語、中国語、英語) 調査対象者:福岡県に訪中の外国人観光客 調査実施場所:福岡空港、博多駅 調査期間:令和 5(2023)年8月19日～令和 5(2023)年8月20日 回収件数:314件
外国人留学生向け WEB アンケート	調査手法:WEB アンケート調査 調査対象者:日本経済大学の外国人留学生 調査期間:令和 5(2023)年7月29日～令和 5(2023)年8月30日 回収件数:120件
Instagramハッシュタグ分析	Instagramに画像を投稿する際に投稿者が設定する「ハッシュタグ」で太宰府市の観光に関わりがあるものを指定し、そのハッシュタグで投稿されている内容を把握・分析

また、本市が毎年実施している市民意識調査では、観光客の来訪に対する評価を質問しています。

調査名	調査概要(令和4年度調査)
太宰府まちづくり市民意識調査	調査手法:郵送発送、郵送及び WEB 回答 調査対象者:太宰府市内に居住する18歳以上の市民 調査対象者数:2,000人 調査期間:令和5(2023)2月10日～令和5(2023)2月24日 回収件数:1,110件(回収率55.5%)

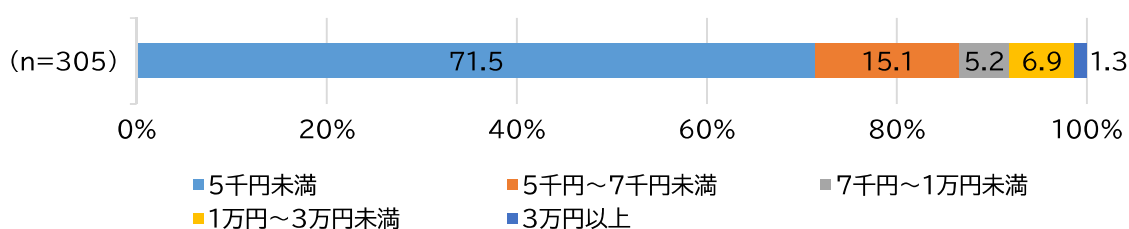
第2章 観光を取り巻く情勢と太宰府市の現状

【調査結果抜粋】

(1)日本人旅行者向け聞き取りアンケート

①観光消費額単価

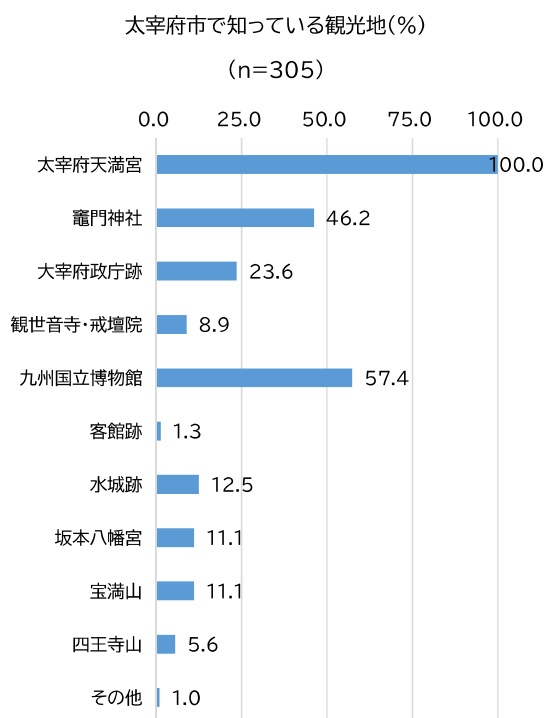
本市を訪れる日本人観光客の70%近くが観光消費額単価 5,000 円未満と回答しました。一方で、1万円以上と回答した観光客の割合は10%未満と、本市の観光消費額単価が低い水準であることが読み取れます。



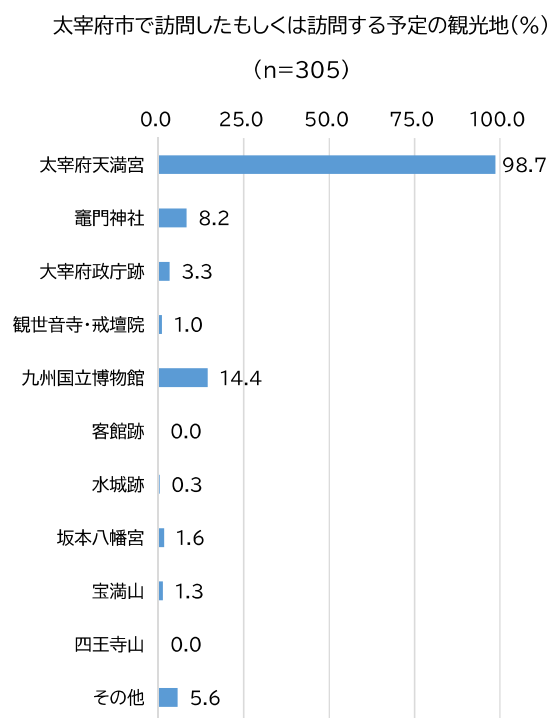
(出典:日本人旅行者向け聞き取りアンケート)

②観光地の認知度と訪問の有無

「太宰府市で知っている観光地」と「太宰府市で訪問したもしくは訪問する予定の観光地」の結果を比較すると、太宰府天満宮以外の本市観光地では、観光地の認知度と実際の訪問状況に乖離が生じていることが分かります。また、太宰府天満宮及び九州国立博物館以外の観光地の認知度は50%を下回っており、各観光地の認知度向上も課題であると考えられます。



(出典:日本人旅行者向け聞き取りアンケート)



(出典:日本人旅行者向け聞き取りアンケート)

③項目別満足度

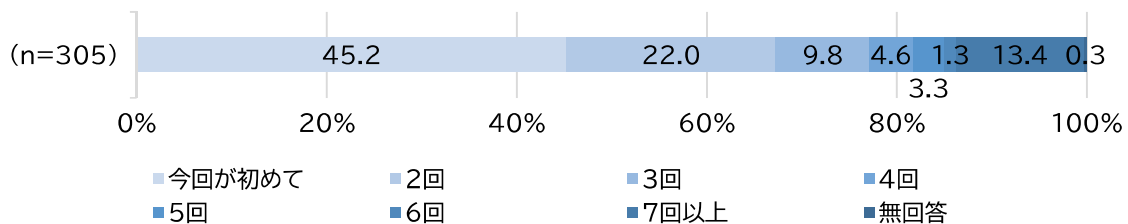
項目別満足度において、「満足」及び「やや満足」の割合が低いのは、「体験・アクティビティ」、「現地で観光情報の提供」、「太宰府市内での移動」の順となっており、これらの項目について特に改善する必要があります。

(n=305)		満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満	非該当・未経験
観光スポット・施設	(300)	79.7	18.0	2.3	-	-	1.6
食事	(226)	75.7	15.5	6.6	2.2	-	25.9
文化景観	(299)	83.6	13.7	2.3	0.3	-	2.0
自然景観	(297)	79.1	14.8	6.1	-	-	2.6
土産物や物産品	(241)	67.2	24.1	8.3	0.4	-	21.0
体験・アクティビティ	(48)	58.3	18.8	22.9	-	-	84.3
宿泊施設	(2)	50.0	50.0	-	-	-	99.3
太宰府市内での移動	(179)	62.0	22.3	13.4	1.7	0.6	41.3
各施設での対応・おもてなし	(280)	70.4	20.7	8.2	0.7	-	8.2
現地で観光情報の提供	(192)	59.4	23.4	17.2	-	-	37.0
総合的な満足度	(301)	75.1	22.6	2.3	-	-	1.3

(出典:日本人旅行者向け聞き取りアンケート)

④訪問回数

本市への訪問回数において、「今回が初めて」の割合は45.2%となっています。一方で、2回以上と回答した人の割合(リピート率)は54.4%となっており、過半数の人がリピーターとして本市へ訪れていることが読み取れます。



(出典:日本人旅行者向け聞き取りアンケート)

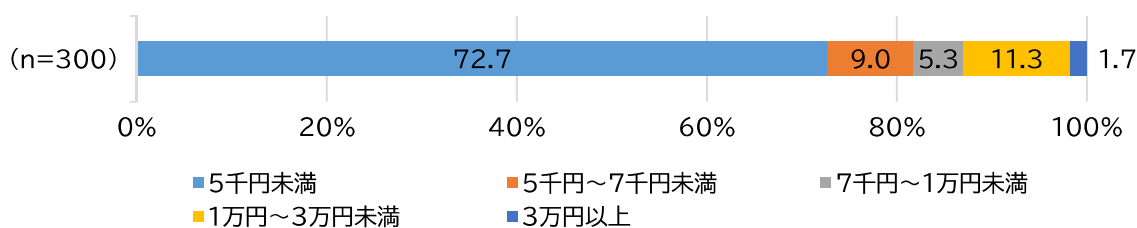
第2章 観光を取り巻く情勢と太宰府市の現状

(2) インバウンド*調査

(「外国人旅行者向け聞き取りアンケート」、「外国人旅行者向け認知度アンケート」、
「外国人留学生向け WEB アンケート」)

① 観光消費額単価

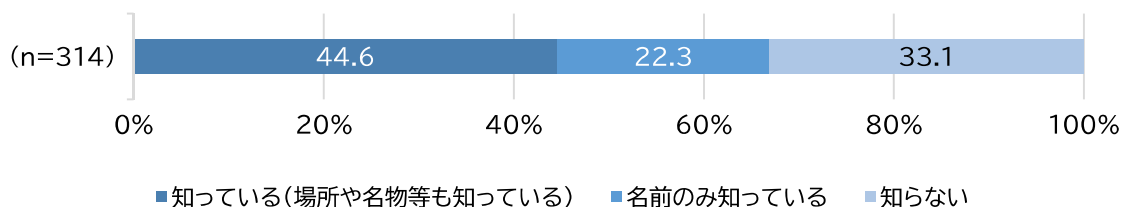
本市を訪れている外国人観光客の70%以上が観光消費額単価 5,000 円未満と回答しました。一方で、1万円以上と回答した観光客の割合は13%と、日本人観光客の結果と同様に、インバウンド*においても本市の観光消費額単価が低い水準であることが読み取れます。



(出典:外国人旅行者向け聞き取りアンケート)

② 太宰府市の認知度

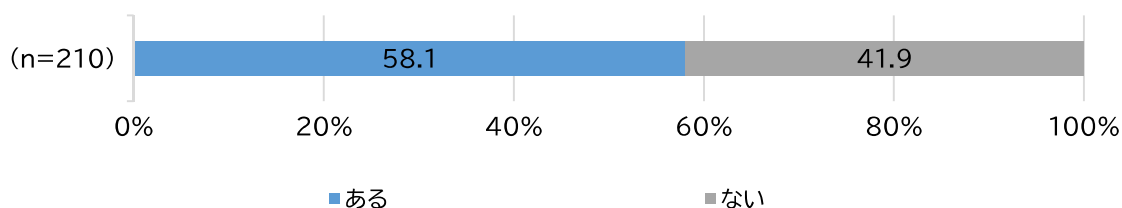
福岡県を訪れている外国人観光客における本市の認知度は以下の通りです。「知らない」と回答した人の割合が3割以上と、海外における本市の認知度には向上の余地があることが読み取れます。



(出典:外国人旅行者向け認知度アンケート)

③ 太宰府市への訪問の有無

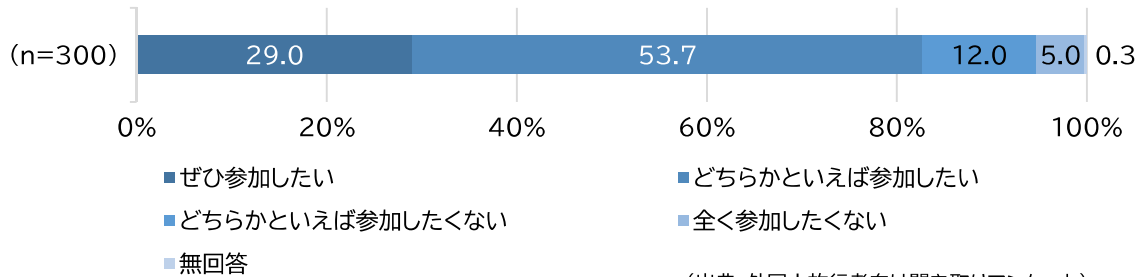
本市を「知っている」と回答した外国人観光客の中で、本市を訪問する予定が「ある」と回答した人の割合は58.1%です。一方で外国人観光客の4割以上が、本市を知っているけれど訪問していないことが読み取れます。



(出典:外国人旅行者向け認知度アンケート)

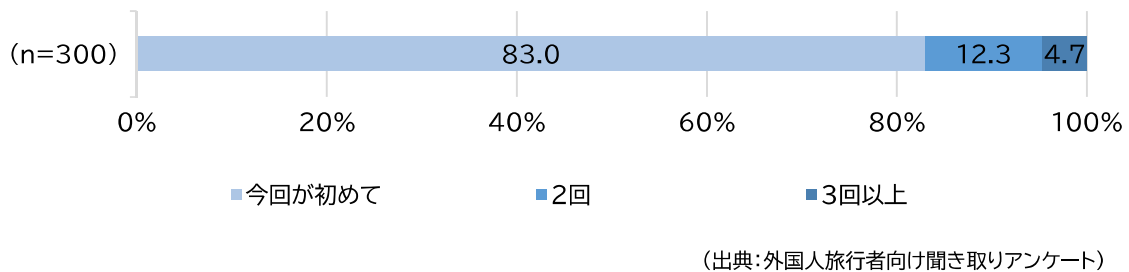
④日本での文化的体験への参加意欲

外国人観光客に、日本での文化的体験への参加意欲を尋ねたところ、回答者の8割以上が「ぜひ参加したい」もしくは「どちらかといえば参加したい」と回答しました。インバウンド*誘客において、文化的な体験は重要な要素の一つと考えられます。また、具体的に体験してみたい内容については「花火大会」、「祭り」、「着物」、「茶道」等が挙げられています。



⑤訪問回数

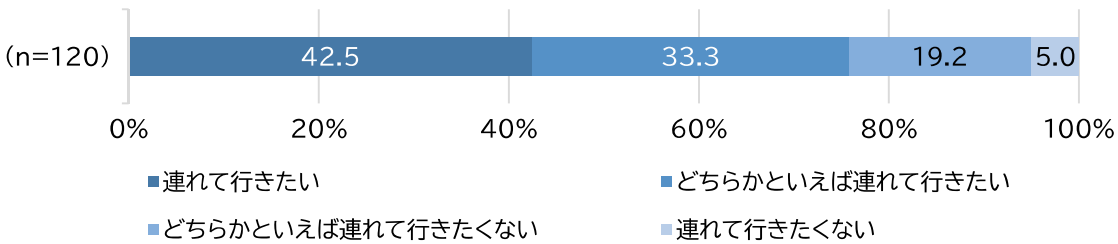
本市への訪問回数において、「今回が初めて」の割合は83.0%となっています。一方で、2回以上と回答した人の割合(リピート率)は17.0%となっており、多くの人が初めて本市へ訪れていることが読み取れます。



第2章 観光を取り巻く情勢と太宰府市の現状

⑤家族や友人を太宰府市へ連れて行きたいか

外国人留学生に、家族や友人を太宰府市へ連れて行きたいと思うかを尋ねたところ、回答者の7割以上が「連れて行きたい」もしくは「どちらかといえば連れて行きたい」と回答しました。「どちらかといえば連れて行きたくない」もしくは「連れて行きたくない」と回答した人にその理由を尋ねたところ、「太宰府天満宮以外のアクセスが悪いから」、「近くに宿泊施設がないから」等の理由が挙げられました。市内二次交通の整備やそのプロモーション、宿泊やナイトタイムエコノミー*の受け皿への取り組みが必要ということが読み取れます。

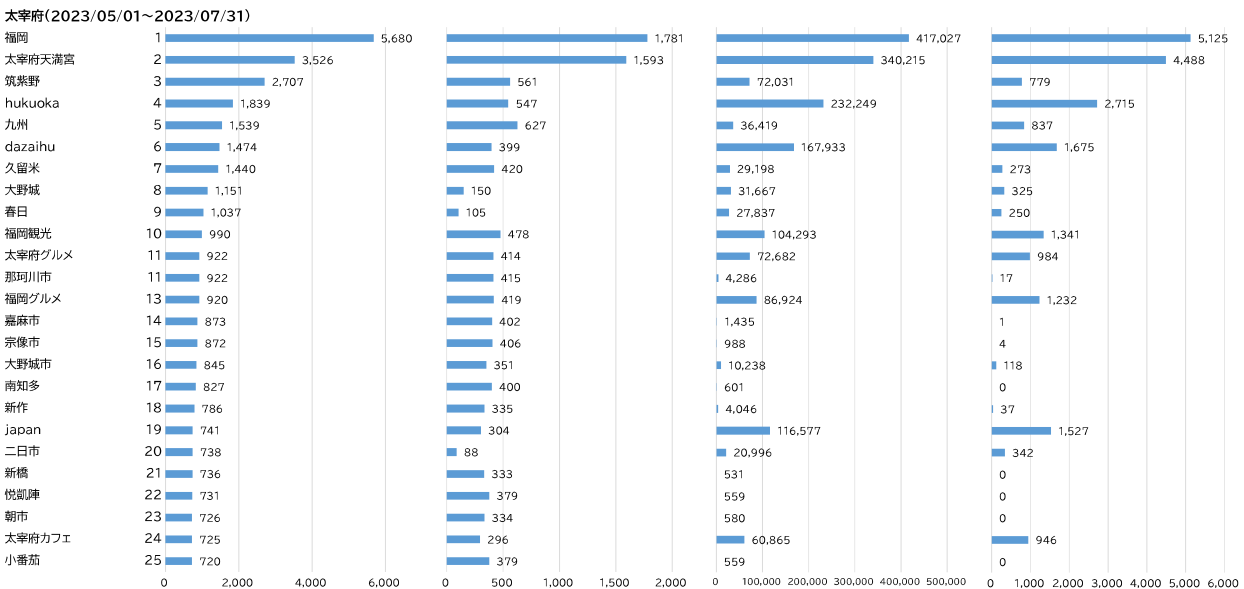


(出典:外国人留学生向けWEBアンケート)

(3)Instagramハッシュタグ分析

①近隣自治体

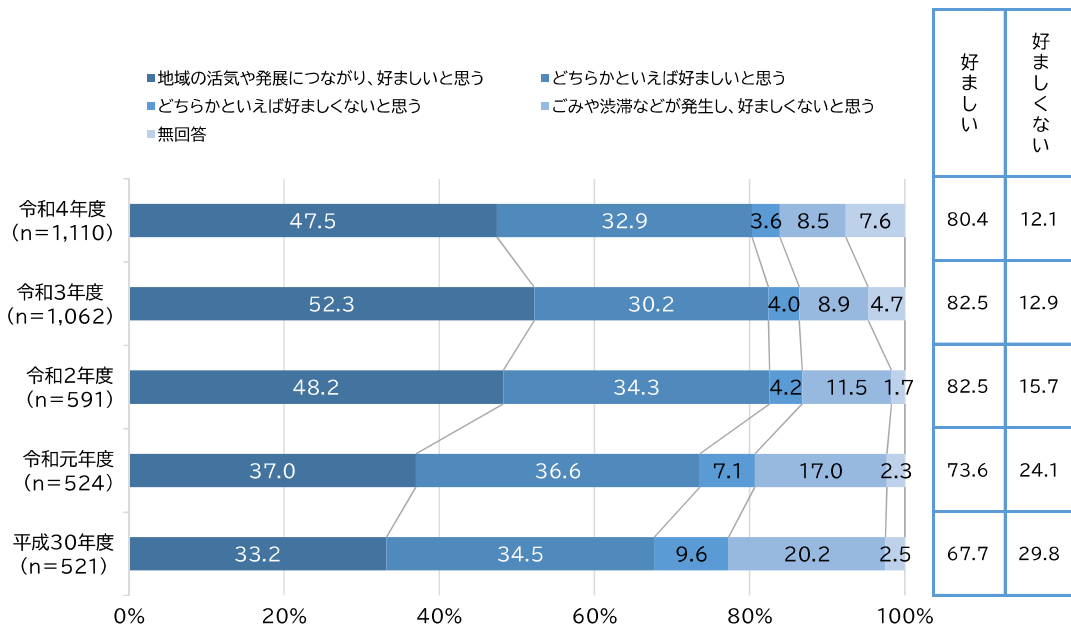
ハッシュタグ「太宰府」について分析した結果、「福岡」や「久留米」等の県名や県内の中核市の他に、「筑紫野」、「大野城」等の近隣自治体の名前も多く見られます。これらの近隣自治体とともに訪れている来訪者や関心を持っているユーザーが多い傾向にあることが読み取れます。



(4)太宰府まちづくり市民意識調査

① 観光客の来訪に対する評価

太宰府市民に観光客の来訪に対する評価を尋ねたところ、令和4(2022)年度には回答者の8割以上が『好ましい』と回答しました。一方で、平成30(2018)年度の『好ましい』の割合は67.7%であり、ここ数年で『好ましい』と思う人の割合が増加傾向にあることが分かります。また、小学校区別にみると、『好ましい』の割合は太宰府小学校区が71.6%であるのに対して、水城西小学校区では91.6%となっており、地域による差が大きいことが読み取れます。



単位：％

		調 査 数	しに地 いつ域 となが 思の活 うり気 や 好発 ま展	好ど まし ら いか と思 いう え ば	う好ど まし ら か な い と思 え ば	な発ご い生み しや 思渋 滞 な ど が	無 回 答	好 ま し い	好 ま し く な い
全 体		1,110	47.5	32.9	3.6	8.5	7.6	80.4	12.1
小 学 校 区 別	太宰府小学校区	176	45.5	26.1	4.5	17.6	6.3	71.6	22.1
	太宰府東小学校区	103	50.5	27.2	4.9	9.7	7.8	77.7	14.6
	太宰府南小学校区	81	45.7	35.8	6.2	4.9	7.4	81.5	11.1
	水城小学校区	182	46.7	35.2	2.7	9.3	6.0	81.9	12.0
	水城西小学校区	131	53.4	38.2	2.3	2.3	3.8	91.6	4.6
	太宰府西小学校区	209	52.2	34.9	2.4	4.3	6.2	87.1	6.7
	国分小学校区	128	50.8	36.7	3.9	4.7	3.9	87.5	8.6
	わからない	72	34.7	36.1	5.6	18.1	5.6	70.8	23.7
	無回答	28	14.3	7.1	-	3.6	75.0	21.4	3.6

(出典：令和4年度太宰府まちづくり市民意識調査)